

# 「徳のこころ」

～輝く人とまちを目指して～

一般社団法人 奈良青年会議所

理事長 倍巖 智洋

## 【はじめに】

「日本の青年会議所は混沌という未知の可能性を切り拓き・・・」 J C宣言の第一節目に記されています。混沌とは、良い要素と悪い要素が入り混じっている状態を指します。この時代をどのように切り拓いていくのか、またどこに着眼し青年会議所運動を発展させていくか。それによって地域の青年会議所の真価が問われます。戦後復興から現代にいたるまで、先人のご苦勞とおかげさまの力により現代の日本が存在します。現在の日本は皆さんの目から見てどのように映るでしょうか。急速な経済成長の波に乗り物質的に豊かな国になりました。しかし、今では物にあふれ、ほしいものはすぐに手に入り、少欲知足という言葉も説得力の無い時代に思えます。40年ほど前に当時の薬師寺高田好胤管主は、これからの時代は「物で栄え心で滅ぶ」と訴えられました。まさに現代社会を呈した言葉ではないでしょうか。物を栄えさせるのも心の持ち方一つで変わります。また、心を豊かにするのも心の向け方で変わります。全ての物事は、人の心の持ち方で変わってくるのです。現代の生活では、水道、電気、ガス、電話などのライフラインが整備され使いたいときにすぐに使える、こうしたことが当たり前になっています。何気ない日常の当たり前のことに誰もが生かし生かされている、もったいない、ありがたいという心を持ち美しい心を育てていかなければ、奈良に宿り古くから受け継がれてきた想いはいずれ忘れ去られていくのではないのでしょうか。

我われは、2013年度に開催させていただいた公益社団法人日本青年会議所第62回全国大会奈良大会において「畏敬の心と感謝の念」という理念を全国のメンバーに発信しました。畏敬の心、すなわち目に見えない絶対的な存在に対して恐れ敬うこと。感謝の念、自然を含め自分以外のあらゆるすべてのものに感謝をする。奈良にはこの精神が根本にあります。引き続き、この理念を携え行動していくことが奈良青年会議所の使命であります。また、青年会議所運動の目的は「明るい豊かな社会の創造」です。明るい豊かな社会とは誰もが幸せに感じることでできる社会であると考えます。確かに物質的な豊かさや幸せの要素に必要ですが、それ以上に心の豊かさを磨かなければならないと感じます。心を磨くということは、幸せを見つける目を養っていくことです。幸せはなるものではなく見つけ気づくものなのです。どんな状況においても、幸せの種は必ずあります。その種を見つけ育てるのはあなたの経験と知識から養われた目なのです。そ

んな社会を目指すならば、物に栄え心で滅ばぬよう青年会議所運動の中で、幸せを見つける目を養い、個々の美德を磨き上げ豊かなころの時代を創造してまいりましょう。

### 【徳のある人へ】

いちにんいっさいにん いっさいにんいちにん  
一人一切人 一切人一人

いちぎょういっさいぎょう いっさいぎょういちぎょう  
一行一切行 一切行一行

この言葉は、私が僧侶として信条にしている融通念仏宗開祖の良忍上人の言葉です。一人（いちにん）とはひとり、一切人（いっさいにん）はすべての人、一行（いちぎょう）は、一つの行い一切行（いっさいぎょう）はすべての行いを表します。つまり、一人はみんなのために、皆は一人のために、一人ひとりのかけがえのない存在が互いに繋がりがあって世は存在する。徳とはまさにこのことです。他のことを思い行動する、利他のところや思いやりのところ、生きていく上での心得を指します。そのところをもって親切・誠実に行動し積み上げていくのが徳です。自己満足ではない思い上がりでもない、他がために行動することがいずれ自分にも返ってくるのです。例えば、水溜りに石を投げ込みます。すると、外に向かって波紋ができ壁に到達します。その波紋が壁にぶつかり、今度は内側に向かって波紋が帰ってきます。人の行いや言動もこれと同じように帰ってきます。善行をすればいずれ自分にも善をもたらし、悪行を働いてもいずれ自分に悪をもたらします。このことを思えば、世は繋がっていることを常に意識し行動することで、自身の過信した気持ちを抑止し自らの意識をより他に向けることができます。自らを咎めることができ他のために行動できる人こそ徳のある輝く人なのです。

### 【組織開発】

青年会議所には様々な職種の会員が在籍しています。それぞれの職場で立場がありその母体から、青年会議所に自己の進化を求めて、または、このまちを変えたい、世のため人のためにと集っています。ここには様々なことを経験する機会が数多く存在し、経験を積み上げることで、多くの学びを得ることができます。また、世界には約17万人、日本国内に約3万5千人の仲間が皆さんと出会い語り合うことを待っています。そのような機会に積極的に参画し、他から学びを得、学んだことを実践に移すことで、総合的な人間力を向上させることができるのです。私は青年会議所の最大の魅力をひとつづくり、つまり人財育成だと考えます。

「けいすんじゅうまい 径寸十枚あら 是れ国宝に非ず、いちぐう 一隅を照らすこ 是れ即ちすなわ ち国宝なり」この一文も私が大切にしている言葉です。径寸十枚とは金銀財宝のことで、「一隅」とは人それぞれの立場を指します。お金や財宝は目先の宝ではあるけれども、自分自身がおかれた立場、役割

で誠実に努力し輝いている人こそ国の宝なのです。一人ひとりがそれぞれの持ち場で最善を尽くすことによって、自身を輝かせ周囲の人々の心に働きかけ響き合うことで社会全体を明るく照らします。まずは、「徳のこころ」を会員が身につけ、会員の資質向上を図り、組織力の強化に努めます。運動をするメンバーから「徳のこころ」が地域の人に伝わり、地域の人から人へ運動を広げてまいります。常にこの繋がりを意識し「徳のこころ」を持った人々の集合体を創造してまいります。

青年会議所は40歳までという限られた時間の中でしか運動できません。新たに入会した仲間には「奉仕」「修練」「友情」の三信条を基軸とした運動に積極的に参加を促し、経験したことを知識として蓄え、事業、例会の本質を自ら考え自らの智慧にしたい。この智慧がいずれ地域を牽引していく人財であることの自覚へと変わり、能動的な活動意欲へと変わります。

それぞれの役割を深く認識し、精いっぱい努力することで自己を高め修練の成果を個々の活動に活かすことができます。青年会議所運動に失敗はありません。まずは、果敢に挑戦することが成長の第一歩です。失敗と思っているものこそ自身を成長させる糧となります。その経験から自己を高めることで、奈良のまちや会社や所属する団体など様々なところにフィードバックしていくことができるのです。各々の与えられた立場、役割、担いを全うするだけでなく、他がための行動を起こし会員全員が輝く人とならなければなりません。

#### 【おかげさまの力によって】

「おかげさま」私の好きな言葉です。目に見えない力を受けて今があるという意味になります。私たちの生活には目に見えない力が必ず働いています。それは、神仏や自然やご先祖、周りの人々。今ここに自分があるのもそういった目に見えない力があるからなのです。青年会議所運動においても同様のことが言えるでしょう。本年で56年目を迎える奈良青年会議所は、これまでに多くの諸先輩方や地域の人々のお力によって運動を続けてくることができました。また、私たちはそういった先輩方の背中を見て憧れを抱き成長してきたのです。

未来を担う子供たちのために、今を生きる大人たちは、「徳のこころ」を行動で見せることが必要です。これにより子供達は憧れを抱き、夢を持つようになります。また、大人は素直な子供の姿に触れ未来を築く子供達の成長に深く関わっていることを認識しなければなりません。まずは、大人がより深く「徳のこころ」を自らの中に浸透させてまいります。教育とは、家庭、学校、地域社会が協力し合い全てが繋がって行うもので、地域の未来を共に考え、学び、生活する人々によって成立させていくものなのです。言い換えれば、共に教わり共に成長するのが共育だと考えます。誰が先生でもない皆が先生であり生徒なのです。人は、過去から現在、未来の縦軸と、現代を共に生きるすべての人との横軸の繋がりの中で存在しています。このことを、世代を超えて理解を深め

なければなりません。多くの支えの中で生かされていることを感じ、おかげさまの力によって今があることを、これからの奈良を背負う子供達に伝えてまいりましょう。そうすることで、自分のまちに対する誇りと、周りの人々や自然に対する感謝の気持ちが育まれ、地域の未来を作り上げていく人財への礎となるのです。

通信媒体の急速な進化と共に、我われの情報を得ることや、発信する手段も変化し続けています。それに伴い我われの運動を発信する手段も多様化しています。まずは、何のために誰のために運動を発信しているのか。目的や手段だけを伝えるのではなく、その情報を目にする地域の人々がどのような印象を受けるのかを見据え正確に情報発信することが必要です。情報は、意識変革を促す最初のきっかけとなります。地域の方々と共にある運動をより効果のある方法で、戦略的に考え発信いたします。

私たちが運動できるのもその相手があつてのことです。常におかげさまの心を忘れることなく、運動できることに感謝し「徳のこころ」を深め歩んでまいります。

#### 【利他のこころを实践】

利他とは、他を重んじ優先して行動する事をいいます。現代社会の消費されている商品を例に挙げてみても、LED電球・ハイブリッドカーなどがよく売れているようです。これらの商品は長い目で見れば経済的で節電や社会貢献につながる一方で、既存品より価格が高かったりします。こうした消費の裏には自ら進んで未来に貢献していこうという意思が表れているのではないのでしょうか。私たち青年会議所は、住み暮らすまちがより善くなるため、まちの未来をより善くするために、この利他のこころを自身のこころにも落とし込み生きていく上での心得を示していかなければなりません。

国際文化観光都市奈良には年間1千3百万人を超える観光客が訪れます。奈良の魅力を存分に発信する機会であり、奈良を訪れる人々に対して歴史文化観光資源だけではなく、奈良に住む人々の心を存分に伝えなければなりません。利他のこころをもつ奈良の地域性を奈良市民や観光で訪れる方々に対し、より浸透させてまいります。

そして、観光という分野においては、現在奈良にはリニア中央新幹線による中間駅の早期開通が目指され注目を集めています。この取り組みが実現するならば、奈良から首都東京までの道のりが大幅に短縮されます。また、奈良を訪れる観光客が大幅に増えることも予想されています。この夢のような事業を前向きにとらえ、地域の人々と共にまちのビジョンを描き出し奈良のまちに新しい風を吹かせてまいりましょう。新しく生み出すところにこそ、古くから伝わる利他のこころをもって未来のために軌跡を残してまいりましょう。

また、利他のこころを携え本年も多くのメンバーが日本青年会議所、近畿地区協議会、奈良ブロック協議会に出向させていただきます。それぞれの出向先における多くの出会いと大きな経験は一段と輝く人になる機会です。そして奈良だけに留まることなく、全国との広い繋がりへと各々の成長を求めての旅になります。出向先での一人ひとりの経験

が大きく実を結びいずれ、このLOMに奈良のまちに還元されることは間違いないでしょう。各種大会にも積極的に参画することで、大会の理念を肌で体感し出向先で活躍する奈良メンバーの姿を自らの目で確かめ、出向者から刺激を受け自らを奮い立たせてLOMの運動に反映させてまいりましょう。活動するステージは違えど、運動の目的は同じです。互いに切磋琢磨することで、高め合うことができます。

奈良を思い「利他のこころ」をもって出向先で誠実に活躍する仲間を私は誇りに思います。そんな彼らを全力で支援し、成果を伝える場を創出するのもLOMの担いです。

### 【徳ある仲間と共に】

40歳で卒業を迎える青年会議所は、新陳代謝が非常に早く年ごとに組織が一変します。これも青年会議所の魅力の一つでしょう。その運動は、これまでの先輩諸兄のご活躍により地域からの信頼を得、徳を積み上げていくことができました。その様な背景の基に我われの組織は存在することを理解し、青年会議所が地域の一員ということ改め認識できます。当たり前なことを当たり前でできる喜びを感じながら運動を展開し、また引き続き地域から信頼を得るためにも、財政面やコンプライアンスなど法に則った土台作りが必要です。この土台を基にメンバーが効果的に、効率的に活動できる組織づくりをし、組織の強化を図ることで、地域に目を向けることができます。一般社団法人格を有している以上、公益性の高い組織としての責任を果たしていかなければなりません。

我われの組織にはどのような魅力があるのでしょうか。現役メンバー自身がこの魅力をよく考え、自分のものとし魅力を発信していかなければなりません。一人ひとりがこの魅力に気づき理解していなければ、新たな同志は増やせないでしょう。また、この発信するという行為が、青年会議所運動なのです。一人ひとり顔を合わせ、「徳のこころ」を持って伝播していくのです。誠実に取り組んでいくことで必ず成果を上げることができます。自身の所属する団体の魅力を共有する機会を設けることで、さらなる誇りを生むことができます。その誇りを情熱に変え発信し続けましょう。56年もの歴史を持ち、地域で活躍する数多くの諸先輩方を持つ団体です。同じ時代に同じ地域で生きる青年達と共に運動を進めていくことが明るい豊かな社会を実現する最良の手段なのです。「徳のこころ」をもって会員全員で会員拡大に取り組んでまいりましょう。

### 【おわりに】

我われは、先輩諸兄から受け継がれてきた歴史と伝統と志をしっかりと受け継ぎ、着実に人々のこころに訴えかける歩みを進めてまいります。この運動に掛け算はありません。一つひとつ運動を足し積み重ねていくのです。青年会議所運動は長い人生の中のほんの一部です。この期間を大切に思い、覚悟を決め、やるべきことに妥協せず、仲間を信じて進んでいきましょう。高めあう仲間との経験が必ず自らを成長に導き、一人ひと

りの成長が必ずまちの成長に繋がります。

人は幸せを求めて生きています。小さな幸せを積み重ねていけば、いずれ大きな幸せに結びつきます。まずは大きなものではない小さな幸せを見つける目を育てていきましょう。その積み重ねの先に必ず明るい豊かな社会は存在します。